

第3回韓日親善大会

大堂秀樹

韓国側からの提案で始まった交流大会も3回目を迎えることになった。

今回は2回目の韓国開催、日本からは、石田団長、中ノ瀬監督、サポート2名、通訳1名、選手7名の12名での韓国入りとなった。通訳は韓国のご好意で、渡航費、滞在費の一切を韓国の連盟から出していただいた。

福岡、関空、中部、成田と別々の空港から出発。空港がリニューアルされ、落合うのに一苦労したが、なんとか集合。

空港で昼食後、バスでホテルへ移動。バスはリフト付、韓国のパラリンピック協会が2台所有しているそうだが、それだけでも驚きなのだが、さらに今年2台購入するとのこと、年間のスポンサー収入が9億円程あるとかで、やることのスケールがでかい。



検量

ホテル到着後、1時間ほど休憩の後、コスチュームを持って集合。今まで例のない前日検量、パワーのルールでは通常ありえないのだが、明日出場する130人の選手を捌くには仕方のないことなのか、それとも韓国ではこれが国内大会としては一般的なのかは不明のまま

歓迎会

検量後、韓国の役員、主要選手達が歓迎会を開いてくださいました。

多くの役員全てが祝辞を述べ(長いです)ケーキが登場、KDPF 会長、理事長、石田団長とで蝋燭を吹き消し、ケーキカット。途中から意味不明なのですが、これは国民性の違いなのでしょう



2日目

試合は2面開催。一方は下肢障害者のベンチプレス大会。もう一方は視聴覚、知的障害者のスクワットとデッドリフト大会。

会場で朝食を済ませ、男子75kg級から試合開始。

75kg級

日本からはアテネパラリンピック出場の宇城選手が出場

世界でもトップクラスの素晴らしいフォームで167.5kgを挙げ優勝
最優秀賞も受賞しました。



開会式

変則だが、75kg級が終わってから開会式

すぐに終わると思い気や、前日に引き続き全ての役員挨拶や国会議員まで登場しての長い開会式。開会式だけで1時間半くらいはかかったような...

男子75kg級の裏でアップを済ませていた小林選手はすっかり冷めてしまった。さらに小林選手の悲運は続く。

選手宣誓をやることになっている小林選手は開会式から離れることができない。それでも次のセッションは自分の出番なので、ヤキモキとしながら選手宣誓

そして、長い開会式を終え、ついに出番と思ったら昼食休憩。昼食も程ほどに2度目のアップをしていると、今度は韓国合気道のデモンストレーション。観客を楽しませる工夫は素晴らしいが、予定時刻を繰り越してまで詰め込まなくても...



女子 44kg 級

日本の唯一の女子選手、小林ひろみ選手の出場。

開会式からの流れで調子を崩しながらも 62.5kg 挙げ優勝。本人の予定では 65kg を狙はずだったのだが、あの流れでは仕方ない。むしろ、よく -2.5kg で済んだものだ。



男子全般

試合の予定時間の流れが大幅に狂っているため、一体自分たちがいつ出番なのかわからぬまま各自アップを済ませます。大体 1 時間くらいの遅れで私の出番がやってきました。

早めにアップを開始し、のんびりと時間調整したので、タイミングはばっちりでした。試合数週間前に体調を崩し、何とか力が出せる状態になったばかりで、172.5kg しか挙げることができなく自責の念

82.5kg 級では優勝です。

その他、中辻選手が 100kg 級の日本記録更新の 190kg で優勝。

最後は韓国のジョン・グンベ選手が今大会最高重量の 200kg を挙げ試合を盛り上げました。



合宿所見学

KDPFの合宿所を見せてもらうことができました。

韓国で世界トップ選手を多数輩出トレーニングプログラムも教えてもらい、今後に生かせそうです。器具は車椅子から容易に移動できるよう設計されており、これらの器具があれば、今まで意図的に鍛えることができなかった箇所がトレーニングできレベルアップにはもちろんのこと、怪我の防止にもつながると思いました。

KDPFでは、今までパラリンピックで活躍してきた選手たちは引退する方向で、世界でのトップレベルの選手は不在になってしまっていました。しかし、今後に向けて選手を育てる環境、体制が整っているため、安心して世代交代が行われるようだ。

日本ではまだまだ、強い選手が出てくるのを待っているだけの状態なので、KDPFのように育成を考える時期に来ているのかもしれない。JDPFにとっても大きな課題だ。



オリンピックトレーニングセンター

合宿所から近い所にオリンピック選手の育成所があり、ウエイトリフティング、レスリング選手の練習を見せてもらいました。両競技とも練習風景は凄まじく、日ごろの自分の練習がかなり生易しい物に感じました。彼らの練習はまるで軍隊のように強烈で、命がけという感じでした。

1日に5000kcal以上の食事をするそうですが、まったく無駄な脂肪がなく、体を見るだけでその激しい運動量が想像できます。

今年10月には障害者のための同様の施設がオープンするそうです。

体育館7棟、50m8レーンのプール、150床の合宿施設を持つKPCのトレーニングセンター

北京パラリンピック前は6ヶ月に及ぶ合宿が行われたと聞きました。

今後、彼らに追いつき追い越すには、気合だけではどうしようもないのでしょうか。パラリンピックを社会参加の一環と位置付けている日本、パラリンピックをオリンピック同等のスポーツ祭典としている他国まずは、この意識の差を変えていきたい。そして、今回の交流大会で得た多くの事を、次のロンドンパラリンピックに生かすよう努力を惜しまないつもりです。

まだまだ韓国から学ぶ事が多そうですが、これからも良い付き合いが続くことを願っています。

